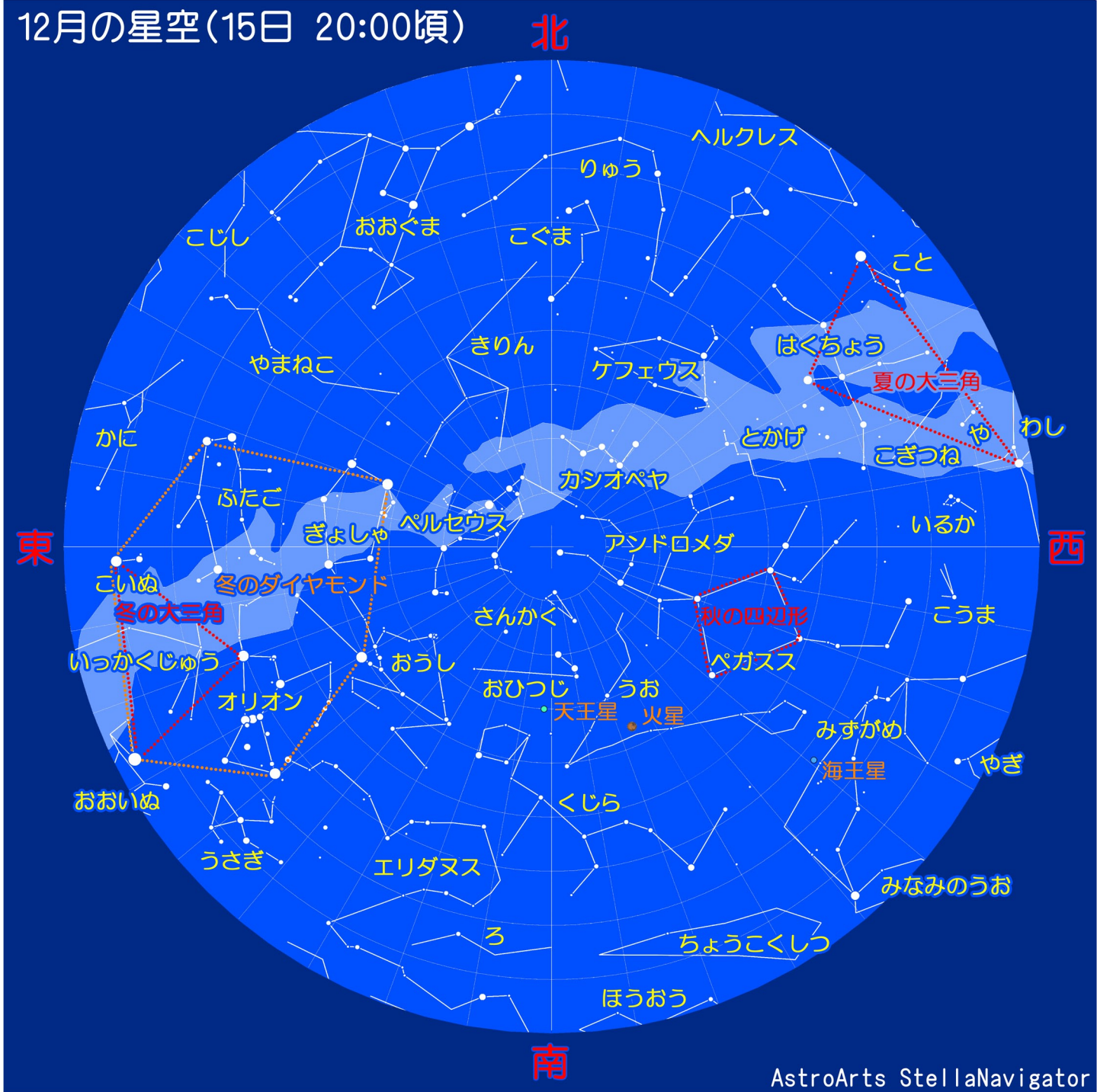


銀河の森天文台
2020年12月みどころ天体情報



今日のイチオシ！

☆木星と土星の超大接近

12月中旬から下旬にかけて、夕方の南西の低空で木星と土星が超大接近します。最接近時には二つの惑星の離角が約0.1度ほどとなり、りくり望遠鏡でも二つの惑星を同時に見ることができます。また、肉眼では二つの惑星がくっついて、ひとつに見えるかもしれません。木星と土星がこれほど近づいて見えるのは約397年ぶり、次回は約60年後となります。最接近は12月22日午前3時頃で日本からは見ることはできませんが、前後の期間は接近した様子を見ることができます。

12月21日16時30分の木星と土星

AstroArts StellaNavigator

月

出 没

8日 下弦 23:34 12:18

15日 新月 07:13 16:16

22日 上弦 11:50 23:53

30日 満月 15:49 07:02

天文台から月を見ることができるのは1~4日頃と17~27日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。

距離：約38万km

火星

最接近の頃と比べると見かけの直径は半分ほどになってしまいましたが、夜空に赤く明るく輝いている姿を見ることができます。

12月も一番星はこの火星となるでしょう。

太陽からの距離：約2億2790万km

天王星

太陽系の外側から2番目の惑星、天王星がおひつじ座に見えています。淡いグリーン色が特徴で、小さく見えますが、直径は地球の約4倍もあります。自転軸がほぼ横倒しになっているのも大きな特徴です。

太陽からの距離：約29億km

M45 (散開星団)

「プレアデス星団」「すばる」と呼ばれている星団で約100個の若い星で構成されています。双眼鏡の視野に広がる姿は宝石箱のようです。アイヌ語ではこの星団を「トランネ・ノチュ(怠け星)」と呼びます。

距離：約410光年

M42 (散光星雲)

オリオン大星雲と呼ばれ冬を代表する天体のひとつです。望遠鏡では、星雲の複雑な模様を観察することができます。中心部には生まれたばかりの4つの星(トラペジウム)が四角く並んでいます。

距離：約1400光年

M37 (散開星団)

ぎょしゃ座にある明るい3つの散開星団のひとつでその中でも星の密集度が高く、非常に見ごたえのある星団です。りくり望遠鏡では、視野一面に星々が広がる様子を見ることができます。

距離：約4400光年

アルマク (重星)

色違いの重星では、はくちょう座のアルビレオが有名ですが、このアルマクも負けてはいません。オレンジ色と青色の星が寄り添う姿がとても綺麗です。

距離：約394光年

ちょっとマニア

・国際宇宙ステーション (ISS)

日本人宇宙飛行士の野口聡一さんが滞在しているISSを探してみましょう。ISSが見える時刻と方角はJAXAのWebページ『「きぼう」を見よう』などで知ることができます。

その他おすすめ

- M31(銀河)
- M52(散開星団)
- M76(惑星状星雲)
- NGC1514(惑星状星雲)
- NGC7662(惑星状星雲)
- アキルド(重星)
- メサルティム(重星)
- ガーネットスター(恒星)

12・1月の銀河の森天文台カレンダー

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

開館時間

14:00~22:30
(4月~9月)

13:00~21:30
(10月~3月)

休館日